

栽培漁業技術開発事業調査（要約） （ハマフエフキ放流調査）

海老沢 明彦

本県の重要魚種であるハマフエフキ資源の維持、増大をはかるため、種苗生産から人工放流までの技術体系を確立する。また、天然資源への放流効果を検証して、放流方法の改善を図る。

結果は平成6年度栽培放流技術開発事業調査報告書（ハマフエフキ、タイワンガザミ）に報告しているので、ここでは要約を示す。

1. 人工種苗（平均尾叉長94-102mm）を平成6年10月7日と11月11日に、栽培センター中間育成場地先（本部町字大浜）に計70,457尾の放流を行った。

2. 平成5年度までに放流した種苗の天然魚との混獲率を市場において調査した。その結果では1993年放流群は名護漁協では0.26%、国頭漁協では3.78%の混獲率であった。1992年放流群はそれぞれ0.44%、1.70%、1991年放流群は2.90%、1.52%となった。

3. 累積の回収率では1987年放流群が1.569%、1989年放流群が1.535%とこの2年群の回収率が最も大きい。1990年放流群は0.942%、1991年群は0.791%、1992年群0.562%、1993年群0.055%となった。1991年以後の放流群は再捕がまだ継続しており、今後回収率は増大し1%程度には達するものと予想される。